

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

- 1 種市ロータリークラブより 創立50周年記念式典の案内が届いています。
日 時 6月17日(土) 13時~登録開始 式典会場 洋野町民文化会館
懇親会場 アグリパークおおさわ 締め切り 4月30日 登録料 10,000円
- 2 米山梅吉記念館より 館報・賛助会入会のお願いと春季例祭の案内が届いています。
例祭 日 時 4月22日(土) 14時~ 場 所 米山梅吉記念館 ホール
締め切り 4月10日
- 3 大船渡商工会議所より 市内中小企業等景況実態調査のお願いが届いています。
締め切り 3月31日
- 4 RI日本事務局より 4月のロータリーレート1ドル116円との連絡がありました。

◆◆◆ 委員会報告 ◆◆◆

★ 社会奉仕委員会より (志田成樹会員代読)



来週4月6日の野外例会は、桜並木・四つのテスト碑清掃を行います。三班に分かれて活動しますが、班編成につきましては例会の前日までにFAXでお知らせいたします。各班ごとに12時30分~13時まで清掃活動をして頂き、その後盛川河川敷グラウンドに集合いただき、13時10分頃より例会その後弁当をお渡しし解散となります。川岸での活動となりますので各自寒さ対策をお願いします。ご協力お願い致します。

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

広報雑誌アワー : 菊池弘郎会員卓話



みなさんお疲れさまです。

広報・雑誌 小委員長の菊池弘郎です。まず、私の自己紹介をさせていただきます。

私のロータリー歴22年、職業は建築工事業です。

大正9年に 先代の父 幸三郎が「菊幸建設」として創業してから、今年でずっと100年近く続いている会社の2代目の経営者です。

平成28年11月に、法人化し、現在は、「株式会社 大船渡の菊地工務店」となっています。

本日は、「広報・雑誌アワー」として、この例会でお話する場をいただきました。

御存知の方もいらっしゃると思いますが、この機会にあらためて再認識いただくため、お話させていただきます。

まず、「ロータリー特別月間」についてですが、これは、クラブだけでなく、ロータリアン一人ひとりが、ロータリーの活動に参加するよう強調するために国際ロータリー理事会が指定した月間を指します。

4月が「ロータリーの雑誌月間」とされており、国際ロータリーの公式機関誌「ザ・ロータリアン」及び世界31の地域雑誌の購読と、その活用促進に役立つプログラムを実施する月間とされています。これは、「ロータリーの友」などのロータリー雑誌に対する会員の認識を深め、それによってロータリーの情報の普及を図ることを目的とするものです。

本日は3月の末ですが、この機会に4月の「ロータリーの雑誌月間」を意識したお話をさせていただくものです。

さきほども、お話させていただいた中でふれたロータリー雑誌「ロータリーの友」についてですが、当西ロータリークラブにおいては、ロータリーの広報活動として、市内の5か所に、毎月の上旬に配布しているところ です。

具体的な配布場所は、・大船渡市役所 ・大船渡市立図書館 ・県合同庁舎 ・県立大船渡高校 ・県立東高校 となっています。

また、「ロータリー情報マニュアル」においては「広報におけるロータリークラブの責務」が記載されています。本日は、皆様のお手元に配布させていただきました。この機会にこの「広報におけるロータリークラブの責務」の7つについて、読み上げさせていただきます。

各ロータリークラブは次のことを期待されている。

- 1 建設的な対報道機関関係を維持する
- 2 成功を収めた奉仕プロジェクトや活動でロータリーの意図と業績を明らかに示すものを報道機関を通じて広報する。
- 3 ロータリアン誌、ロータリー・ワールド、ロータリーの地域雑誌及び他の推進方法を利用して、ロータリーの意図と業績を地域社会内に広める。
- 4 ロータリーの意図と業績を家族、友人、知人に知らせようロータリアンに勧める。
- 5 ロータリアンとその使命、規模、プログラム、活動を認識してほしい地域社会の指導者、青少年、関係団体の理解を助長する。
- 6 ロータリーの声価を損ねない、その効果を制約しかねない地域社会内もしくはクラブ内の状態を防止、矯正するため積極的措置を講じる。
- 7 報道関係者をできる限り会員に迎える。

この7つとなります。

私としては、ロータリーの精神やロータリーの活動について、会員個人個人が、それぞれの立っている場所で、まわりの方々に伝えていただくことが、大切な広報となると考えています。みなさまも可能な範囲で、ロータリーの広報にたずさわっていただければと思います。

ここまでで、広報・雑誌アワーとしてのお話を終わります。

引き続き、本日は、会員卓話としての時間も頂戴しましたので、ここからは、私の職業を通じた地域奉仕活動の一つを紹介させていただきます。

お話するうえで、まず私の所属する「気仙訓練協会」について、お話させていただきます。

昭和 27 年 4 月に労働基準法に基づき設立した「気仙技能養成協会」が始まりで、同協会が開設した訓練校は、昭和 33 年に職業訓練法が施行（せこう）されると同時に事業内認定校となり、「人材の育成、技術の向上」の重要性を再認識し、名称も「大船渡技能訓練協会」と改め、昭和 45 年 3 月には、「職業訓練法人 大船渡職業訓練協会」と改称し、昭和 59 年 4 月には住田職業訓練協会と合併し、現在の「気仙職業訓練協会」となっています。

創立当初から熱心な指導者に恵まれ、これまでに多くの修了生を輩出（はいしゅつ）し、修了生は優秀な技能者として活躍しています。

あの東日本大震災で、訓練校も水に浸かりましたが、増築のうえ平成 25 年 4 月から訓練を再開しているところです。

私は、18 歳で協会に所属しました。当時、協会に初めて作られた「青年部」の青年部長の役をおおせつかり、これまで約 50 年訓練協会に所属してきました。近年ですと、震災をはさんで平成 27 年までは訓練部長、平成 28 年からは総務部長として、協会の活動をさせていただいています。

協会の活動は、訓練生の訓練だけではなく、例を挙げれば、産業まつりにおける木工教室等の出展も行っているところです。

この気仙職業訓練協会に昨年、大船渡市から協力の依頼がありました。

その協力の内容は、大船渡市が実施している「地域資源活用交流促進事業」の一環で、大船渡市が岩手大学と連携し、末崎町の「世界の椿館・基石」の新たな椿のシンボルとなるものを作るにあたり、その製作について

協力してほしいというものでした。

気仙職業訓練協会としては、協会の活動を通じた地域貢献や、訓練生の勉強にもなることから、この取組に協力することとし、訓練校の講師、訓練生、そして総務部長である私が、この取組に携わることとなりました。

昨年12月の中旬に、岩手大学の教育学部 芸術文化課程 美術・デザインコースでインダストリアル研究室に所属する4年生の 須藤 優（なお）さんとお会いしたのが始まりでしたが、最初に見せられたのは、図面じゃない、「デッサン」でした。



デッサンは、椿をモチーフにした「テーブル」で、確かに若い学生の発想として、おもしろいとは感じましたが、芸術コースの学生であり、図面を書けるわけではないことも理解し、まずはこのデッサンをもとに、その学生の想いを聞き取りながら、一つひとつ、テーブルを実際の形にするための手順をふんでいきました。

12月からテーブルの製作を始めましたが、杉材の材料選び、

また、訓練生も交え、その材料取りから教えるところから始め、1月からは、葉をもとにデザインしたイスの製作も行い、製作は2月までかかりました。



学生の想いもふまえ、また、協会として私個人としても、中途半端なものを作るわけにはいかないという思いで関わり、一貫して釘を使わず、かつ、安全に使えるものという思いで、製作に協力しました。

卒業製作の一環での取組でもあったため、期間も限られた中であり、なかなか進行が追い付かない部分については、私の会社の仕事が終わってから、会社の作業場で、私の出来る範囲で、製作への協力を続けました。

2月には、テーブル、イスが完成し、卒業製作のパンフレットに掲載する写真撮りまでこぎ着け、3月3日から3月9日には、岩手大学の芸術文化課程 美術・デザインコースのほかの学生さんたちが製作した作品と一緒に、盛岡駅そばの「アイーナ」で展示が行われました。

私も須藤さんから案内を受け、3月5日の日曜日に展示場所に足を運びましたが、彫刻、絵、版画、金属加工、オブジェ、モニュメント等様々な作品があった中、一緒に製作したテーブルとイスがありました。その場で感じたのは、その場にあった他の作品とは大きく違い、たった一つだけ、「人に使われてはじめて形となる作品」だったということです。

実際、私がその会場に居た時間の中でも、様々な年代、そして多くの方々が、テーブルのまわりに置かれたイスに座り、感触を確かめていました。人につかわれる良いものを作ることに携わったんだなと実感した瞬間でした。

3月には、つばきまつりの後半に間に合い、世界の椿館・碁石の中にテーブルとイスは設置され、同館を訪れた方々が、触れ・座り感触を確かめていたと聞いています。

丁度、昨日の3月29日には東海新報にも取り上げられたところで、紙面をご覧になった方もいらっしゃると思います。

今回私は、気仙職業訓練協会の一員として、気仙大工として、その技能を通し、地域貢献の一助（いちじょ）とするため、取組みましたが、ロータリークラブにおいては、それぞれの会員が、自分の業種を通じて、自分の得意とする分野で、自分のやり方で地域への貢献ができるはずだと考えています。

我々一人ひとりが、ロータリアンとして、それぞれが出来る範囲で、地域へ貢献・奉仕していくことを、あらためて呼び掛け、卓話を終了させていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

